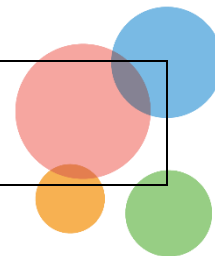


いばらきネットモニター

「いばらき幸福度指標」に関するアンケート結果



1 調査目的

本県では、令和4年3月に策定した「第2次茨城県総合計画～『新しい茨城』への挑戦～」において、「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向けて、今まで抽象的な概念に留まっていた幸福を「見える化」するため、新たに「いばらき幸福度指標」を導入しました。

今回、指標の認知度や県民の皆様が考える幸福観を把握するため、本調査を実施しました。



2 結果の概要

- ・「いばらき幸福度指標」について、「知っている」、「名前を聞いたことがあるが内容はよくわからない」の合計は4割程度となったほか、本指標による本県の全国順位の認知度は1割程度に留まった。
- ・「いばらき幸福度指標」による本県の2022年度の全国順位（第10位）に対して、「高いと感じた」割合が半数近くを占め、その理由として、民間による魅力度ランキングへの言及が多かった。また、「低いと感じた」、「妥当だと感じた」理由としては、本県の住みやすさ・暮らしやすさへの言及が多かった。
- ・幸福かどうかを判断する際に重視する事項として、「健康状況」や「家計の状況（所得・消費）」、「精神的なゆとり」などの事項を選択した人の割合が高く、男女や年齢階級で選択した項目に差が見られた。
- ・現在の「いばらき幸福度指標」に関する項目の中で、幸福かどうかを判断する際に、半数以上の方が以下の項目を選ぶ結果となった。
 - 「新しい豊かさ」…所得や雇用者の賃金の高さ
 - 「新しい安心安全」…健康寿命や経済的自立状況など
 - 「新しい人財育成」…基礎学力の高さ
 - 「新しい夢・希望」…人口流入状況や若者就職者の増加率
- ・県総合計画の効果的な周知・広報手段については、SNSの活用や県広報紙「ひばり」の活用のほか、公共の場所での広告掲載や学生の授業、各種集会での広報など、地道な広報手段が重要であるとの意見が多かった。

【問1】

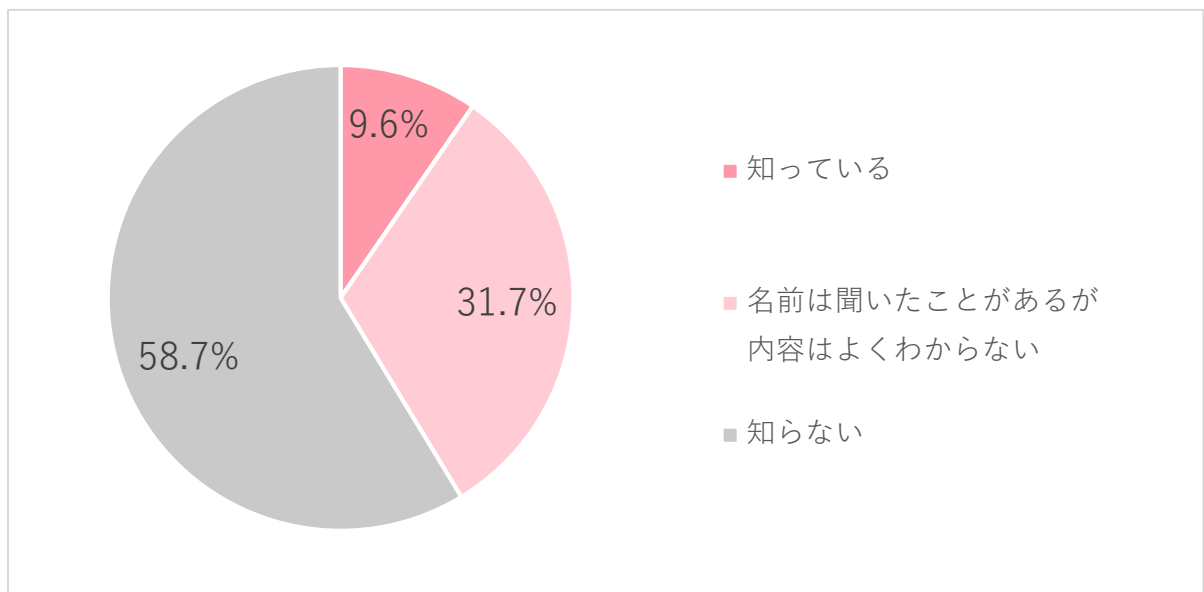
（「いばらき幸福度指標」の認知度）

あなたは、「いばらき幸福度指標」（※1）を知っていますか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。 (n=697)

（※1）「いばらき幸福度指標」とは？

県では「県民一人ひとりが未来に希望を持つことができ、自身のなりたい自分像に向かって一歩でも二歩でも近づいていけるよう、挑戦を続けられること」が幸せな状態と考えており、そのような環境の整備・充実状況を定量的に把握するために導入しました。現在、「いばらき幸福度指標」は41指標で構成しています。なお、「いばらき幸福度指標」について、詳しくはこちらをご覧ください。

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/kikaku/seisaku/kikaku1-sogo/shinkeikaku/koufukudoshihyou.html>

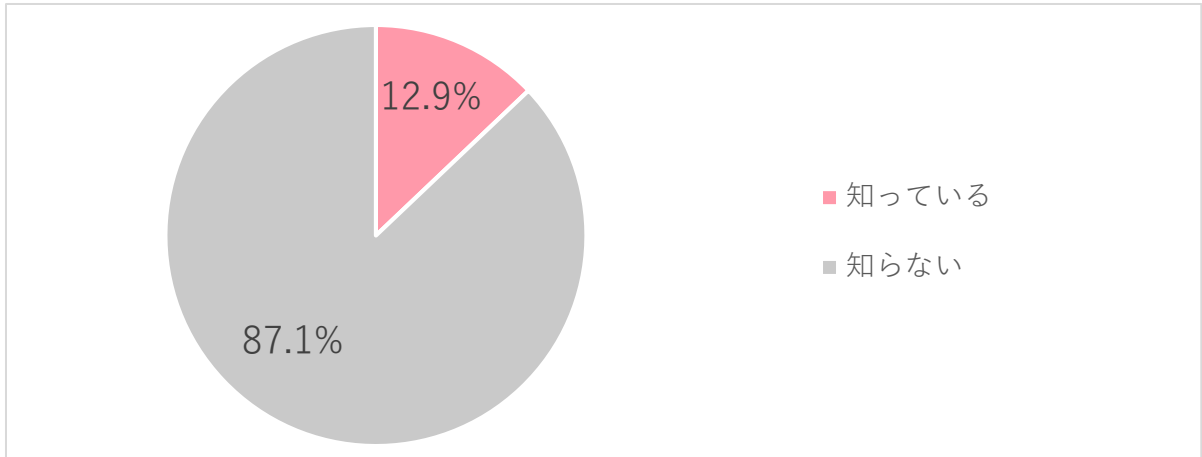


「知らない」割合が58.7%（409人）と最も高く、「名前は聞いたことがあるが内容はよくわからない」割合は31.7%（221人）、「知っている」割合は9.6%（67人）に留まった。

【問2】

（「いばらき幸福度指標」における本県の全国順位の認知度）

県では、「いばらき幸福度指標」による全国順位を算出することで、これまでの政策の成果や課題の明確化を図っています。あなたは、「いばらき幸福度指標」による、本県の2022年度の全国順位が第10位となったことを知っていますか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。 (n=697)

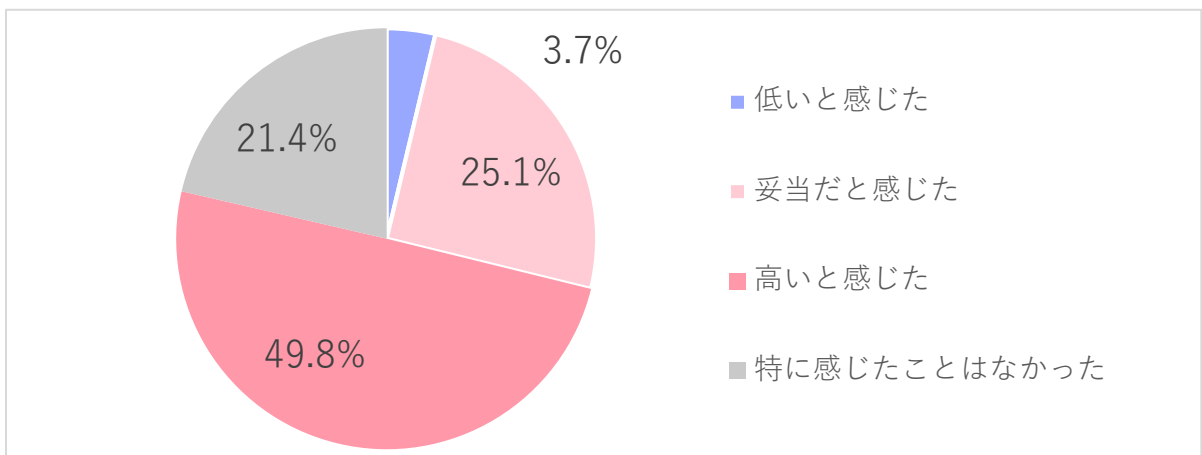


「知らない」割合が87.1%（607人）と9割近くを占め、「知っている」割合は12.9%（90人）に留まった。

【問3】

（本県の「いばらき幸福度指標」における全国順位に対する意見）

あなたは、「いばらき幸福度指標」による、本県の2022年度の全国順位を聞いたときどのように感じましたか。次の中から当てはまるものを1つ選んでください。 (n=697)



「高いと感じた」割合が49.8%（347人）と半数近くを占め、「低いと感じた」割合は3.7%（26人）に留まった。

【問4】

(本県の「いばらき幸福度指標」における全国順位に対する意見の理由)

問3において選択した理由について、記述欄に記載してください(250字以内)。(n=547)

選択した理由について、次のような意見をいただいた(抜粋)。

【「低いと感じた」理由】

- ・住みやすいから、もっと高いと思った。
- ・災害も少なく、気候も温暖、住んではとても良いところかと思う。
- ・都心に近いのでアクセスもよく、家賃も安い為、暮らすのにはそこまで不便はない。
- ・茨城には海があり山があり観光にも優れていると思ったから。
- ・自然に恵まれて農業も盛んで科学的研究も進んでいるから。 など

【「妥当だと感じた」理由】

- ・魅力度は低くても住んでいる人たちは生活しやすいから、満足度はそこそこ高いのではないかと思ったから。
- ・茨城県はほどほどに住みやすく、食べ物もおいしい。
- ・様々な角度から評価されれば、住みやすく魅力ある都道府県だと思っていたから。
- ・自然豊かで、不便なく過ごすことかできる。海、山、川もあり、首都圏に隣接、農業、林業、漁業、工業など多くの業種に就業可能であるから。
- ・車さえあれば生活しやすい地域だと思っているので、上位なのは妥当。 など

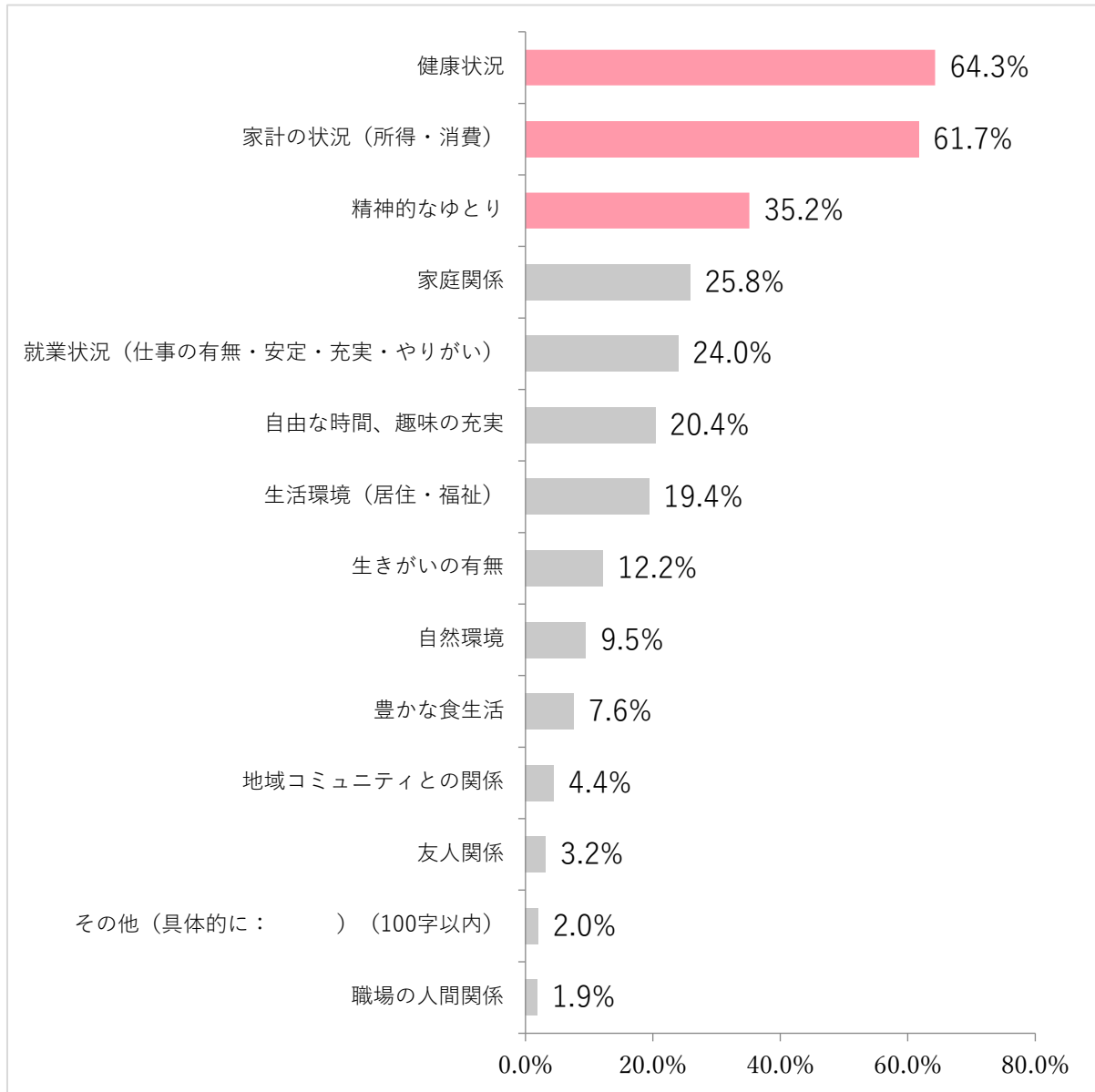
【「高いと感じた」理由】

- ・茨城県は、魅力度ランキングでいつも最下位争いをしているので驚いた。
- ・東京のような都会や、沖縄のような観光地で高そうだったので、予想より順位が上だと思った。
- ・何事においてもほどほどの県なので、住みやすいとは思いますが、それにしても10位は高すぎるかと思った。
- ・余暇を楽しむ商業娯楽施設や観光施設の数も多くないから。
- ・市町村によって、教育やインフラ事業の差があると感ずるため。 など

【問5】

(ご自身が幸福かどうかを判断する事項)

あなたが、幸福かどうかを判断する際に重視する事項は何ですか。当てはまるものを最大3つまで選んでください。 (n=697)



「健康状況」64.3% (448人) が最も高く、次いで、「家計の状況 (所得・消費)」、「精神的なゆとり」の順に高かった。なお、「その他」については、次のような意見をいただいた (抜粋)。

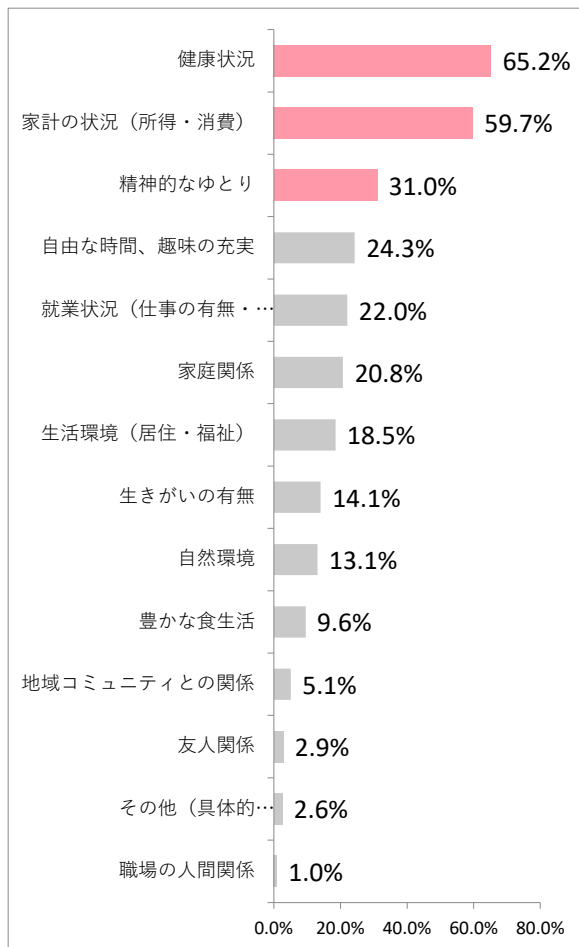
【「その他」の内容】

- ・交通の利便性
- ・子どもの学業
- ・健康やお金や人間関係などに関係なく、自分が幸せだと感じるかどうか。 など

○男女別

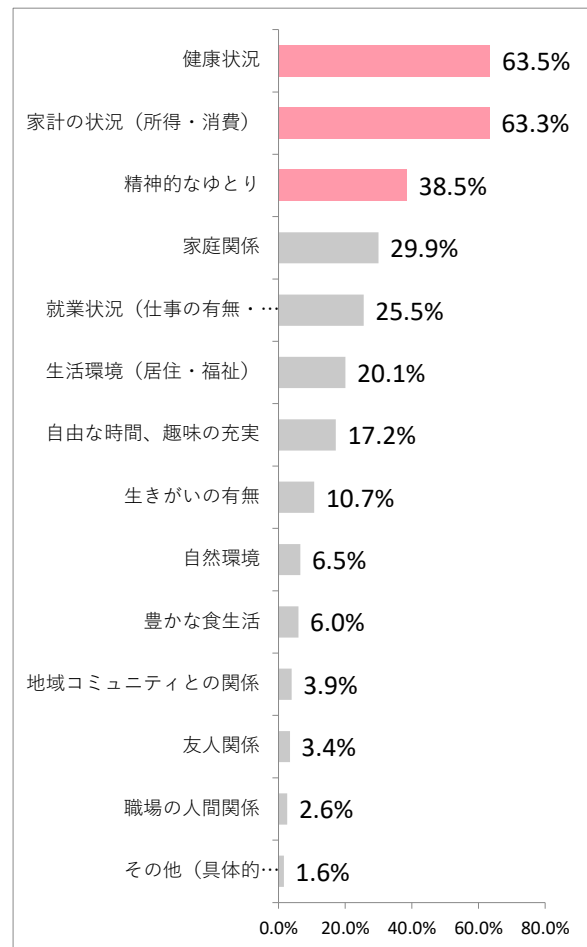
【男性】

(n=313)



【女性】

(n=384)

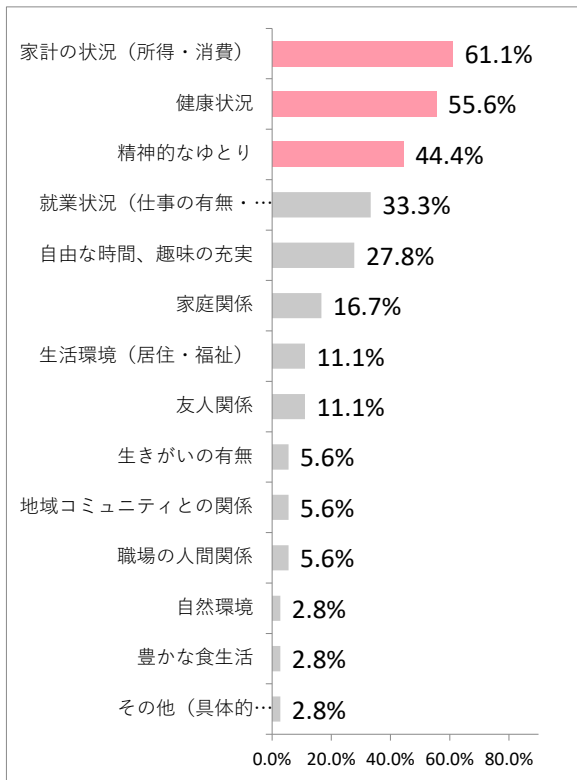


男性・女性を問わず、「健康状況」が最も高く、次いで、「家計の状況 (所得・消費)」、「精神的なゆとり」の順に高かったが、4番目に高い項目が男性では「自由な時間、趣味の充実」、女性では「家庭関係」となり、男女差が見られた。

○年齢階級別

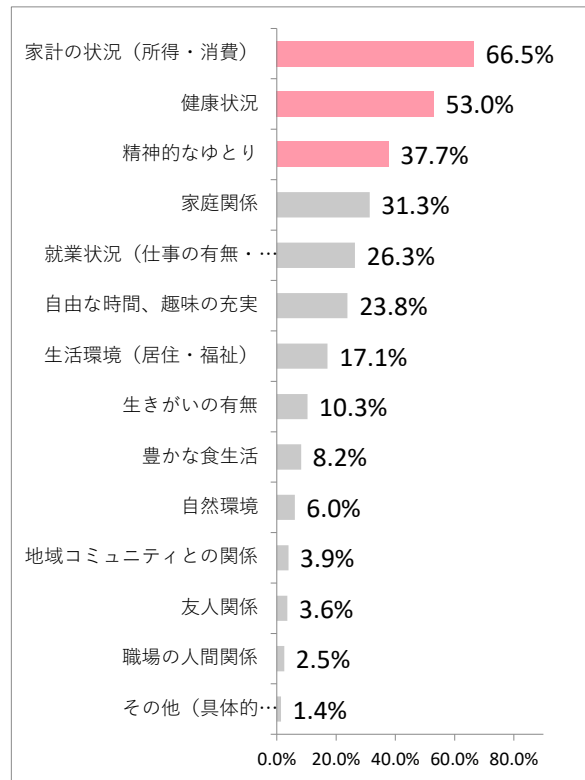
【～29 歳】

(n=36)



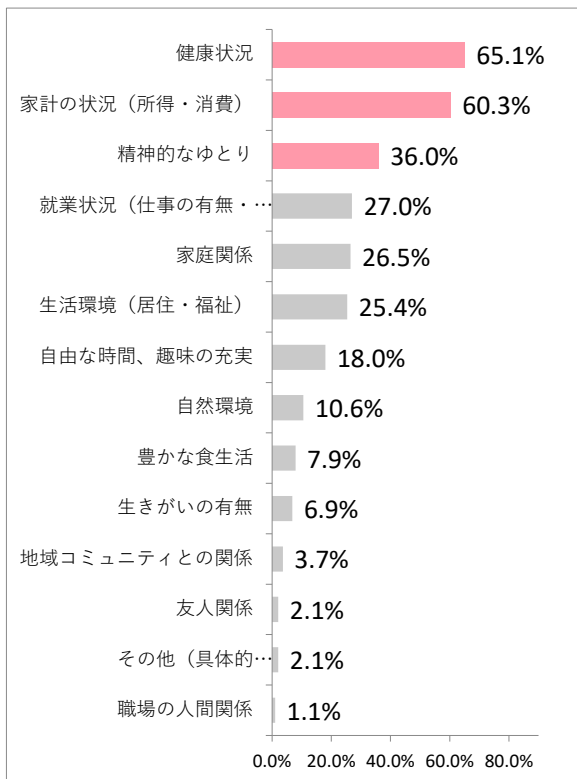
【30～49 歳】

(n=281)



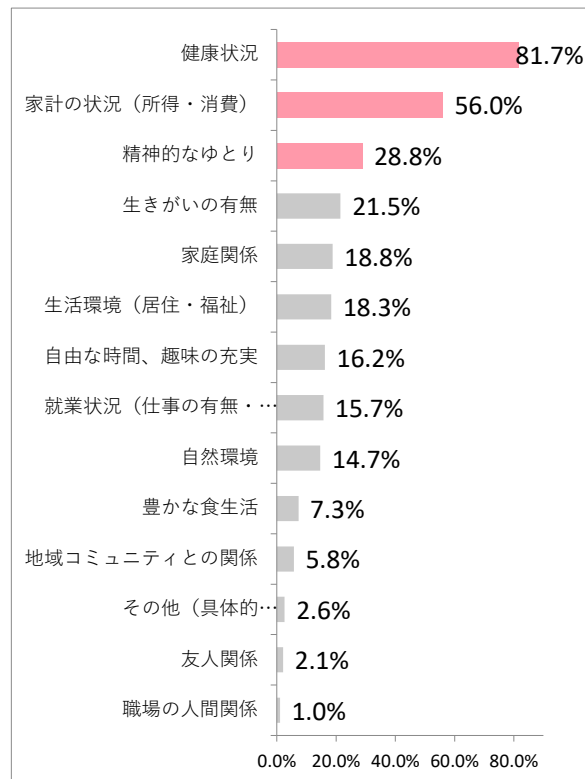
【50～59 歳】

(n=189)



【60 歳～】

(n=191)



49 歳以下の年齢層では、「家計の状況（所得・消費）」、「健康状況」、「精神的なゆとり」の順に高かったが、50 歳以降では、「健康状況」が「家計の状況（所得・消費）」を逆転し、最も高い結果となった。

【問6】

(ご自身が考える幸福な状態)

あなたが考える幸福な状態について、問5において選択した内容を参考に、記述欄に具体的に記載してください(200字程度)。 (n=697)

本設問については、次のような意見をいただいた(抜粋)。

【健康状況に関する意見】

- ・まず、健康でないと何もできない。心身共に健やかで、元気でいられることが一番。
- ・健康で働くことができ、家族揃って食事を楽しめることに幸福を感じる。
- ・健康な身体と精神がなければ、幸福などありえないと思う。
- ・健康に関して医療機関と、相談窓口が身近にあること。 など

【家計の状況(所得・消費)に関する意見】

- ・所得があり、仕事にやりがいがある。仕事と生活のバランスがとれていて、ゆとりを感じる状態。
- ・豊かな所得は生活に潤いを与えると同時に、子どもの教育にも大きな影響を持つ。
- ・生活するのに不安のない安定した収入。
- ・きちんと食べて働けて遊べるある程度の所得があって、家族みんなが元気で何事もなく穏やかに過ごすこと。 など

【精神的なゆとりに関する意見】

- ・精神的に余裕がありつつ、仕事にも趣味にも熱中できる状態。
- ・幸福とは、今の自分自身をありのまま受け入れ、満足できる状態であることだと思う。
物質的な側面よりも、精神的、内面的な状態を健康に、QOL を高める生き方が大切。
- ・精神的に安らげる環境で、時間に追われることなく、好きなことにかけてられる時間が
多い状態。
- ・経済的に不安なく、気候温暖で健康的に過ごせ、たまに家族と旅行しリフレッシュして精神的にも健やかに生活できること。 など

【その他の意見】

- ・おいしいご飯を食われて毎日規則正しく生活できる。
- ・一人で生きていくことは難しく、仕事でもそうだが人間関係が重要。
- ・人生の選択肢が複数あり、自分で選べる状態。 など

【問7】

(幸福かどうかを判断する際に重視すること①)

県総合計画では、「県民幸福度 No.1」の実現に向けて、4つのチャレンジ(※2)により政策を推進しています。ここからは、現在の「いばらき幸福度指標」について、それぞれのチャレンジごとにお伺いします。

(※2) 県総合計画の4つのチャレンジについて

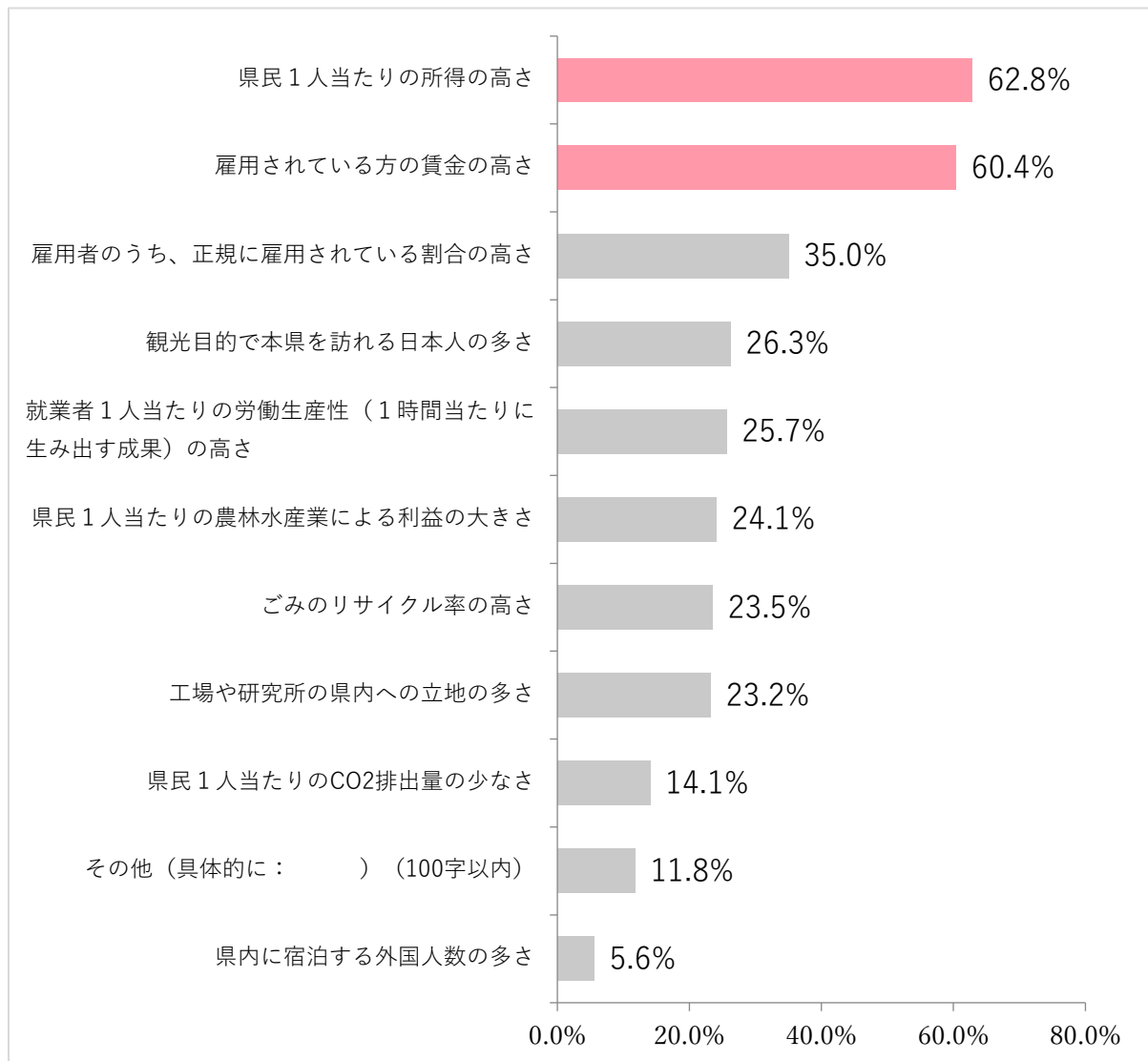
県では基本理念の「活力があり、県民が日本一幸せな県」の実現に向け、4つのチャレンジを推進しています。

チャレンジ	概要
新しい豊かさ	力強い産業の創出とゆとりある暮らしを育み、新しい豊かさを目指します。
新しい安心安全	医療、福祉、治安、防災など県民の命を守る生活基盤を築きます。
新しい人財育成	茨城の未来をつくる「人財」を育て、日本一子どもを産み育てやすい県を目指します。
新しい夢・希望	将来にわたって夢や希望を描ける県とするため、県内外から選ばれる、魅力ある茨城（IBARAKI）づくりを推進します。

なお、「いばらき幸福度指標」の個別の指標について、詳しくはこちらをご覧ください。

https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/kikaku/seisaku/kikaku1-sogo/shinkeikaku/documents/04_sihyoutiran2022.pdf

県総合計画の「新しい豊かさ」のチャレンジに関する次の項目の中から、あなたが幸福かどうかを判断する際に重視するものを、全て選んでください。 (n=697)



「県民1人当たりの所得の高さ」62.8%（438人）が最も高く、次いで、「雇用されている方の賃金の高さ」60.4%（421人）となり、2つの選択肢において半数を超える結果となった。なお、「その他」については、次のような意見をいただいた（抜粋）。

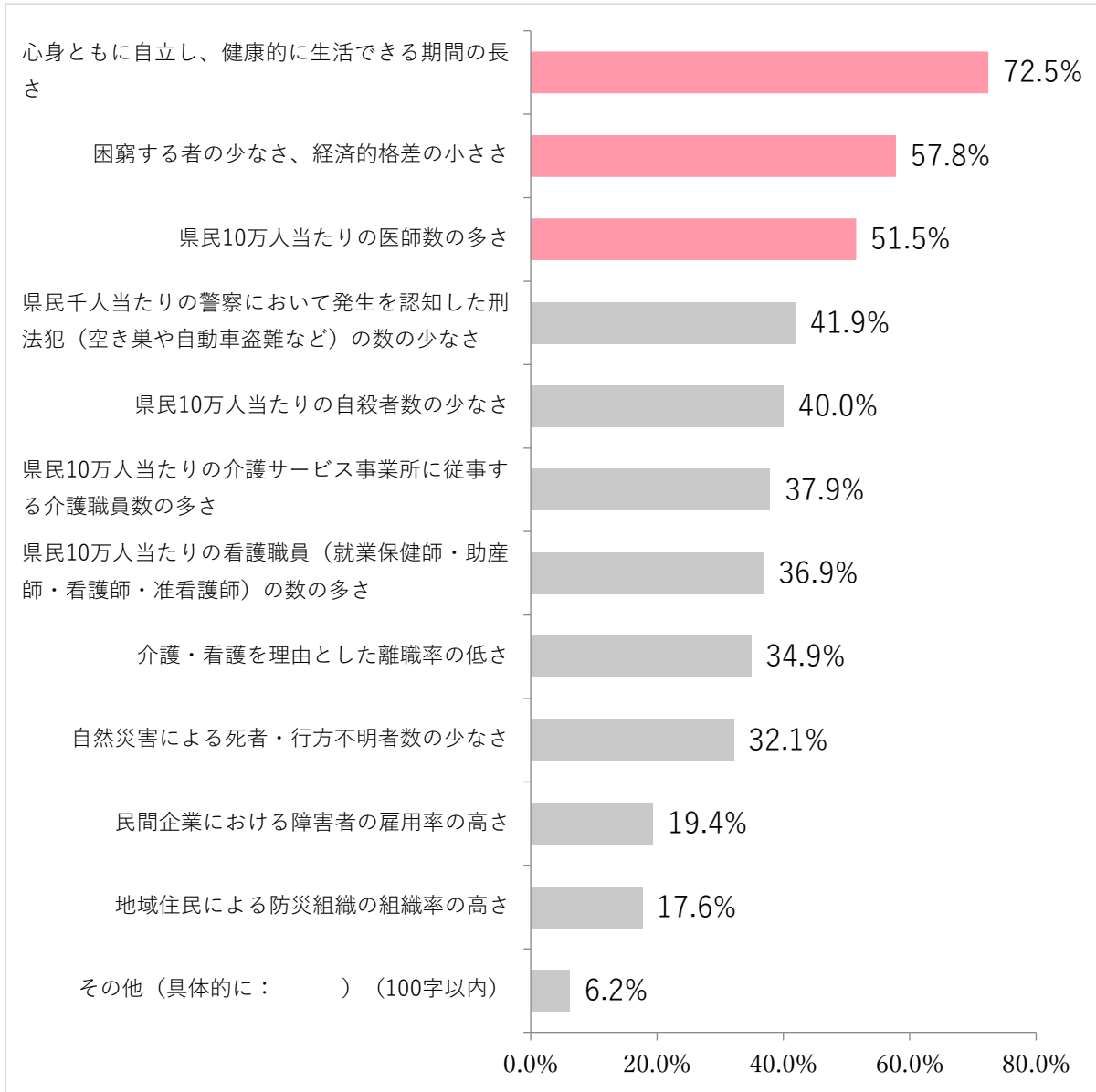
【「その他」の内容】

- ・自然にやさしい産業、社会の確立
- ・消費する農林水産物の地元産品の割合
- ・賃金、就業率に男女差がないこと など

【問8】

(幸福かどうかを判断する際に重視すること②)

県総合計画の「新しい安心安全」のチャレンジに関する次の項目の中から、あなたが幸福かどうかを判断する際に重視するものを、全て選んでください。(n=697)



「心身ともに自立し、健康的に生活できる期間の長さ」72.5%（505人）が最も高く、次いで、「困窮する者の少なさ、経済的格差の小ささ」57.8%（403人）、「県民10万人当たりの医師数の多さ」51.5%（359人）となった。なお、「その他」については、次のような意見をいただいた（抜粋）。

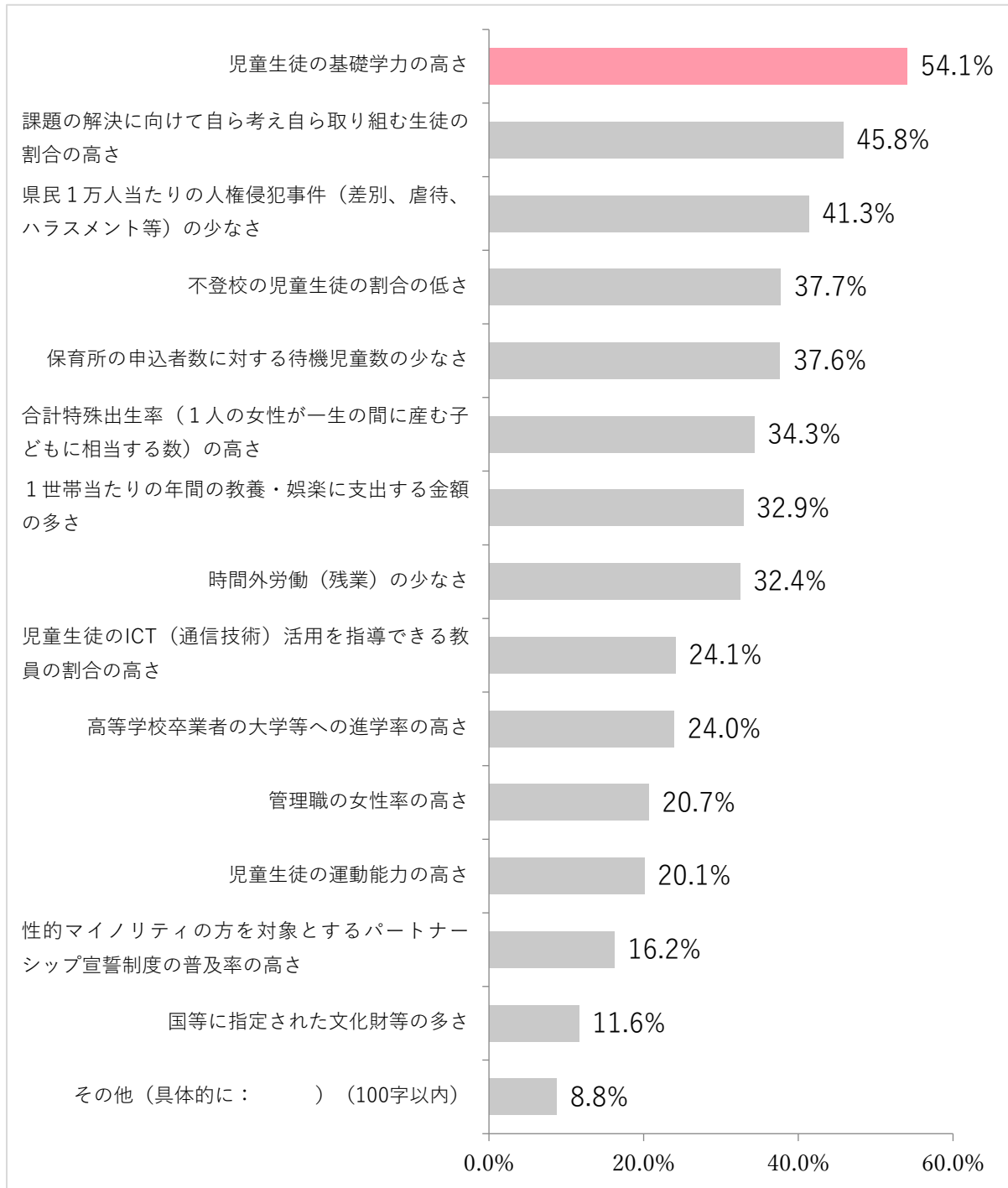
【「その他」の内容】

- ・医療従事者数は重要だが、その質がさらに重要。
- ・災害時に活動する消防、救急、自衛官等の多さ など

【問9】

(幸福かどうかを判断する際に重視すること③)

県総合計画の「新しい人財育成」のチャレンジに関する次の項目の中から、あなたが幸福かどうかを判断する際に重視するものを、全て選んでください。(n=697)



「児童生徒の基礎学力の高さ」54.1% (377人) が最も高かった。なお、「その他」については、次のような意見をいただいた(抜粋)。

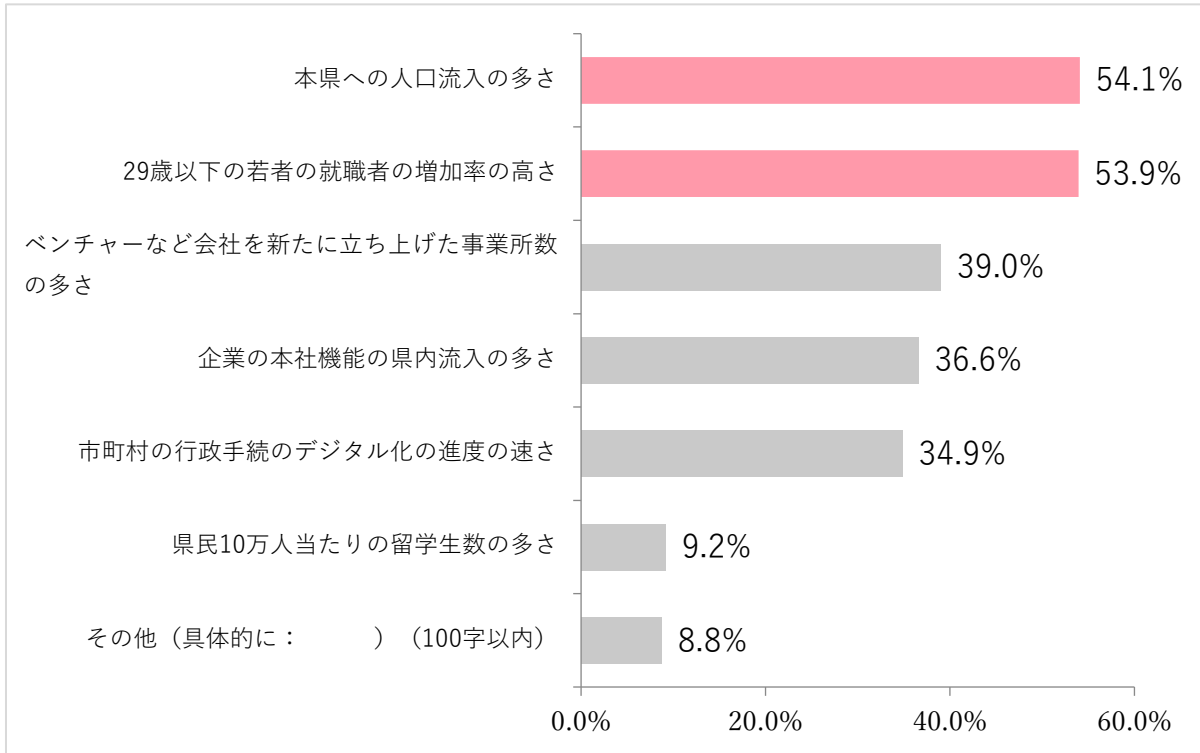
【「その他」の内容】

- ・自ら学ぼうとする者の学習機会が提供できること。
- ・グローバル人材の育成のための英語学習の強化 など

【問 10】

(幸福かどうかを判断する際に重視すること④)

県総合計画の「新しい夢・希望」のチャレンジに関する次の項目から、あなたが幸福かどうかを判断する際に重視するものを、全て選んでください。 (n=697)



「本県への人口流入の多さ」54.1% (377人) が最も高く、次いで、「29歳以下の若者の就職者の増加率の高さ」53.9% (376人) となり、2つの選択肢において半数を超える結果となった。なお、「その他」については、次のような意見をいただいた (抜粋)。

【「その他」の内容】

- ・公共交通機関が便利であること
- ・若者の県外流出の少なさ
- ・事業の失敗したときの支援の充実度 など

【問 11】

(県総合計画の周知・広報手段)

今後、「いばらき幸福度指標」を活用し、県総合計画を広く周知・広報していく手段として、どのような方法が効果的であると考えますか。記述欄にご自由に記載してください(250字以内)。 (n=344)

本設問については、次のような意見をいただいた(抜粋)。

【SNS に関する意見】

- ・LINE、Twitter など SNS を使用する。学生の授業に取り入れる。
- ・若者世代には、Twitter などの SNS で伝える。トレンド入りするような工夫があると話題性が高まる。 など

【県広報紙に関する意見】

- ・月初めに新聞と一緒に配布されている「ひばり」に具体的内容を掲載する。
- ・広報紙「ひばり」を利用し、分かりやすい言葉で、情報発信してほしい。 など

【テレビ等のマスメディアに関する意見】

- ・NHK 水戸放送局での PR、ラジオでの PR
- ・広報紙「ひばり」の活用や地域コミュニティ FM の活用などが有効と思う。
- ・メディアへの露出度増加 など

【その他の意見】

- ・公共の場所など目につく所に広告を貼り出す。
- ・医療機関や郵便局、銀行等の待合室で動画を流す。
- ・観光客にアピールするといいいと思うので、観光地でキャンペーンを展開するなどしたらどうか。
- ・著名人に力を貸していただき、親子向けイベントを行う。
- ・学校や各種集会での参加者への啓蒙活動など。 など

3 アンケート結果を受け、今後の事業展開・アンケートの活用方法等について

「いばらき幸福度指標」の認知度や県民の幸福観に係る参考とするとともに、本指標等を活用した広報等により、県総合計画に掲げる基本理念や本県の将来像、政策の方向性等について広く県民との共有を図っていく。

4 調査の概要

(1) 調査形態

調査時期：令和5年5月22日（月）～6月4日（日）

調査方法：インターネット（アンケート専用フォームへの入力）による回答

モニター数：1,061名（県内在住者のみ）

回収率：65.7%（697名）

回答者の属性：以下の通り。

		人数（人）	比率（%）
全体（n）		697	100.0
地域別	県北	60	8.6
	県央	259	37.2
	鹿行	46	6.6
	県南	269	38.6
	県西	63	9.0
性別	男性	313	44.9
	女性	384	55.1
年齢別	16～19歳	4	0.6
	20～29歳	32	4.6
	30～39歳	108	15.5
	40～49歳	173	24.8
	50～59歳	189	27.1
	60～69歳	122	17.5
	70歳以上	69	9.9
職業別	自営業	55	7.9
	会社員	250	35.9
	団体職員	27	3.9
	公務員	32	4.6
	主婦・主夫	156	22.4
	学生	12	1.7
	無職	86	12.3
	その他	79	11.3

(2) 担当課

茨城県政策企画部計画推進課（総合計画グループ）

電話：029-301-2523

E-mail：kikaku2@pref.ibaraki.lg.jp

（注）割合を百分率で表示する場合は、小数点第2位を四捨五入しました。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値が一致しないことがある。

また、図表中の表記の語句は、短縮・簡略化している場合がある。